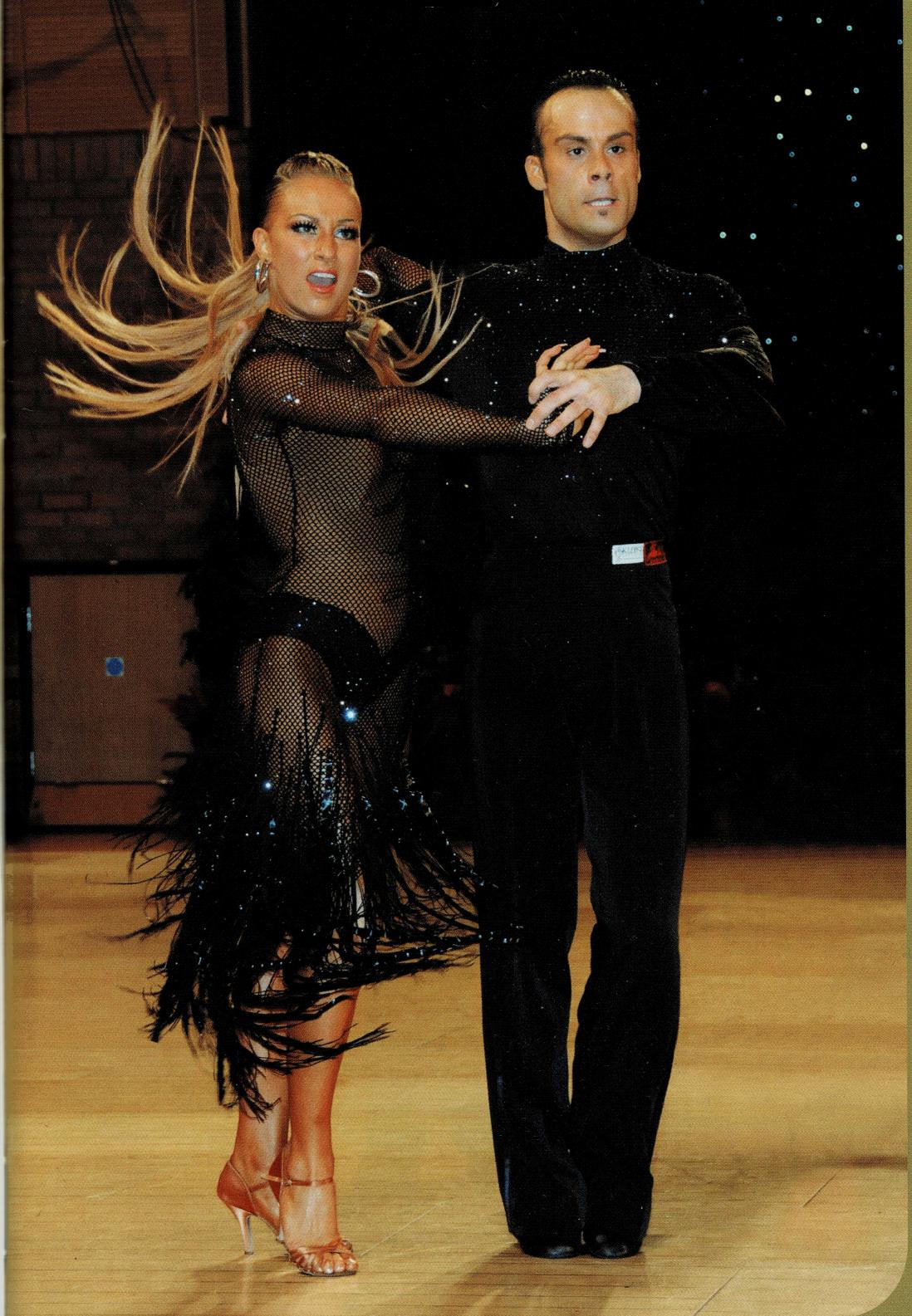


ダンサーとして人である。

しかし我々はダンサーとしての彼らしか知らない。

そこで今回は、ゲストの「ダンサーとしての顔」はもちろん、「人としての顔」にも迫つてみようと思い、某スタジオで撮影中のフランコとオクサナを訪ねた。



Dance Pro file

● Interview to Franco Formica & Oxana Lebedew

Interview by
Hisako Kammoto & Emi Tochiya

UK選手権秘話

編集 今回のUK戦では非常にキレのある踊りを拝見させていただきましたが、ご自身で大会を振り返つてみてどうですか？ 観客席からはすごく目立っていたとの声を耳にしました。

フランコ 実は、万全な体勢で試合に臨むことが出来なかつたのです。2週間の猛練習をした後、UK戦の直前に病気になってしまって…決していい調子ではありませんでした。

当日は呼吸するのも苦しかったのですが、僕のコーチヤーは最初のダンスから良く踊っていると言つてくれました。
編集 そうなんですか（驚）。具合の悪さなど微塵も感じさせない踊りでしたが…そんな中、4位という結果は素晴らしいですね。

フランコ ありがとうございます。競技会そのものは苦しかつたですが、踊りは良かったということになるのかな。

編集 予選からファイナルまで黒一着のみで踊り切つたのがとても印象的でした。何かねらいがあつたのですか？

オクサナ 率直な所、二人で踊り始めた頃はファイナル前に別のドレスを使用したりしてはいたのですが、決勝に残れなかつたりすると、友人達が皆、着替えない方がいいとアドバイスしてくれて。そもそも見ている人が「素敵なドレスだね」と言つてくれて、自分でも気に入つたデザインで着心地の良いドレスなら、それで踊り通すのがいいと考えようになつたのです。

フランコ このドレスが自分たちの踊りにとてもよくマッチしているので、踊り全体の構成やコリオグラフィーを考えると、他のドレスでは役目を果たさないとと思うのです。二度も三度もドレスを着替える人たちもいて、それはそれで否定はしませんが、これは競技会であつてファッショニショーンデザイナーたちと一つのチームのようにしてみんなで話し合いを重ねながら作り上げていきます。

編集 オクサナさんのドレスはとてもセクシーでしたね。「素敵だった」とのコメントをいただきました。実にたくさんの人から

とても着心地がいいの。このドレスは、ベルリンの「デザイナー」と話し合いをして作り上げました。ドレスを作る時は、自分の考え方を持ち込んで「デザイナー」と話し合つて作るのですが、私はエレガントさを大切にしていて、セクシーさを求めている訳ではないのよ。

重力に反発して踊れ！

編集 UKの試合を見た時、お二人とも、とても身長のある方だという印象を持ったのですが…お二人の身長はどのくらいですか？

オクサナ 私は165cmです。

フランコ 僕は179cm。

編集 フロア上では、実際の身長よりもとても大きく見えますね。

フランコ それは僕たちにとって、素晴らしいコメントだと思います。自分たちの体の内部からエネルギーを放出でき証拠ですから。

編集 どのようにして自分たちのエネルギーを放出し、大きく見せているのでしょうか？

オクサナ それは技術と体の強さからくると思っています。コーチヤーたちからも教わる事ですが、体の内側からボディをストレッチするようにしています。単に外側を伸ばすのではなく。そのためにはボディの中に蓄えた沢山のパワーを踊りの中に注ぎ込んでいくのです。背を高く見せたり体を大きく見せたりするには、そうした技術が必要なのです。

私はそれとは全く反対の事を試みています。

フランコ 人が死ぬと地に帰ります。生きている間中、大地は自分を捕えようとしているので、捕まらないようにしなければいけないです。ダンスでも同じです。ボディを落とす事より重力に反発している方がパワーも生まれますし、その方がバランスもずっと良くなるのです。

編集 では、決して床の中に押し込む感じではないのです

フランコ・フォーミカ&オクサナ・レイビドゥー(ドイツ)
イタリア出身のフランコとカザフスタン出身のオクサナがカップルデビューしたのは2007年、一昨年のこと。まだカップルを組んで間もないにも関わらず、2008年UK選手権、ブラックプールで5位入賞。ロンドンインターナショナルでは4位、2009年UK選手権でも4位と好成績をおさめ、その名を世界に轟かせ始めている。今後注目のカップルである。



フランコ 床から離れて行こうとするところで、床の中に入つていく—そんな感じです。重力に従つてボディを落とすのと違ひ、常にボディを持ち上げていなければいけないので、これから、これを行うにはより大きなパワーが必要です。僕はアマチュアのチャンピオンになってからバレエを習い始めたのですが、良かったと思っています。なんでもバレエの技術で行おうとするのはとても危険ですが、ラテン・ダンスの技術とバレエの技術を融合させたり、お互いの良い所をダンスに応用させたりできましたからです。もしバレエだけをやっていたなら、固い動きになってしまっていただしよう。

編集 競技会の時は何を考え、どんな事に集中して踊つているのですか？

フランコ ダンスは戦争ではない。つまり、お互いに殺し合ひをしている訳ではなく、自分のできる事をしているのであります。僕たちにとってダンスは、単に勝つ事とか、チャンピオンになる事とか、お金を稼ぐ事ではなく、人生の哲学であり芸術であり、自己表現の場と思つていてるので、競技会で音楽が流れている2分とか2分半を使って表現できれば良い—そうした事を競技会では考えています。勿論、いい結果を出して勝ちたいとは思うけれどそれは結果であつて、自分たちが行う事は自分たちができる最高のパフォーマンスをする事—これが最優先事項です。もし、勝ちたい、勝ちたいと思って踊つていると、きっと見ている人にはいい踊りには見えないことでしよう。ダンスにはその人の生き方がでます。生き方がフロアの上に反映され、嘘はつけない。勝つ事、もうける事ばかり考へてゐる人がいたとするなら、その人の踊りには感銘を受けないでしよう。

ドニー・バーンズたちの踊りのすごい所はそこなんだ。長年チャンピオンの座にあり、挑戦する相手がない立場にあつても、彼らがしてきたことは、自らの踊りに集中、専念したこと。どうしたら音楽を表現できるだろう、どうしたら喜びを表現できるだろう—と。だから偉大なのです。

ダンスにおける自由とは？

編集 競技会では振り付けしたルーティンを使って踊ると思うのですが、いつも同じ音楽が使われる訳ではないですね。音楽が変わったとき、どのように対応するのですか？

フランコ 難しい質問だね(笑)。

オクサナ 私は同じルーティンを使つていても、音楽が様々なインスピレーションを与えてくれる時には、それを体の中に取り入れて表現しようとなります。もし音楽が普通の、特に感動を見るようなものでなければ、自分たち自身で動を創りだすように努めます。ですから、音楽と共に踊りを創りだしてくれる事もありますし、そうでない時もあります。

編集 もし、音楽が良くなかつたら…？

オクサナ そうね、自分たちの踊りだけに専念する事になるわ(笑)。

フランコ ルーティンとかコリオグラフィーなど、決められて自由がないように考へるかも知れませんが、そうでもありません。もしコリオグラフィーがなかつたら、社会生活と同じで自由すぎて不自由になつてしまふ。決められた振り付けがあつても、その中での自由がある訳で、音楽を感じて、こここのステップの仕方をこう変えてみる、ということが行えます。このわずかなチェンジは、最終的には大きな変化となるのです。同じクカラーチャを踊つても、場所、時間、音楽、雰囲気、観衆によつても変わる訳で、決して同じものにはならない。それはクカラーチャがその瞬間自分の個人的なものになつてゐるからです。

オクサナ 同じフィガー、同じコリオグラフィーの練習をして、何もかもが同じ事の繰り返しになつてはいけないの。自分の本能、直感を殺してはいけないのよ。それではまるで、本能を持たないロボットのようになつてしまふもの。

フランコ 勿論、技術は必要です。技術なくして踊れませんし、技術は安全を確保しますから。それでも…

オクサナ 本能が働く余地、自由を感じる余地を残しておかなければならぬということです。

編集 では、ラテン・ダンスで大切なことは何でしょうか？

フランコ 踊りは瞬間瞬間に異なるものだし、それそれにユニークだと思います。音楽が流れるところ間前後の時間が自分たちに与えられる訳で、それを使ってパートナーと一緒に踊りを創造するのは楽しいです。決められた動きをすら口ボットではありませんから、自分たちを表現したいと思つています。

編集 それは観客に対してもですか？

フランコ 観客に対してもありますが、最初は自分たちにあり、それから自分たちを通して観客に訴えかけるという考

え方です。まず自分に語りかけ、次にパートナーと話し合い、それが観客に届く、という感じで、突然観客に対しても話しかける感じではないのです。

編集 それが、U.K戦では上手くできたということですね。
オクサナ そうですね。ただ、私たちが目標とした所には届きませんでしたが、正しい方向へ進んで行っているのは確かだと思います。今回いい成績を残せたので、それでOKという風には考えておらず、次に発展する方向を探し続けています。

フランコ 今、この機会に、よりストロングにならなければ

と思っています。例えばマイケル&ジョアンナを見ていると、彼らはチャンピオンになる価値のあるカップルです。なぜなら長年の間、とても懸命に練習し続けてきているからー

プロとして。それが今日の成功につながっていると思うのです。

オクサナ 本当にすごいカップルよね。

フランコ 本当に、彼らはなかなか破られないカップルだと思う。勿論、彼らに勝とうとする目標を持つてはいるけど(笑)。僕たちも正しい方向へと確実に上達していますし、確実に彼らに近づいていると思っています。

お互いをリストペクトする

編集 お二人は、何歳からダンスを始めたのですか?

オクサナ 結構小さい時からバレエを習っていて、ラテンやボーラームを習い始めたのは確か8才の頃からら。

フランコ 僕は10才からです。

編集 お二人が習ったというのは学校で、ですか?

フランコ いいえ。僕の場合は一人の兄がいて、既に長男はダンスをしていました。僕は5才からフットボールをしていましたが、ダンスが面白そうでやってみると結構上手くできたので、それからダンスを続けています。

オクサナ 私の母はバレエの先生だったので、小さい頃からダンスの環境にいました。ですからバレエの道を進む事もできたのですが、ある時テレビでダンスを見てからその魅力に取り憑かれてしまつたの。

編集 ではお二人のご両親とも、現在のお二人をご覧になつて、とても喜ばれているでしょね。

フランコ 僕の母はどちらかというと、そんな事をしていな

いで勉強しなさいとか医者になりなさいとか、普通の仕事に就きなさいとかそんな事ばかりをいう現実的な女性なのです。僕がアマチュアの世界チャンピオンになった時、「そう。素晴らしいわ!」と言った後で、「じゃあ、ダンスをやめて普通に働いてちょうどいい」と言つたくらいで(笑)。ここまで来て、それはできないじやありませんか(笑)。

編集 そうですね(笑)。コンビを組んでどのくらいになりますか?

オクサナ 2年? 2007年の試合が私達二人の最初の試合でした。

編集 どうして前のパートナーと別れて、二人で組もうと思ったのですか?

フランコ 僕はその時、1年程ダンスをしていなかつたんだ。アマチュアのチャンピオンになつてからダンスをやめて、バレエの学校に通つたり演劇のクラスに通つたりしていてダンスをしようとは思つていなかつた。そんな時、オクサナとパートナーが僕のクラスに顔を出してきましたのです。パートナーはロシア人でビザの問題があり、彼女が帰国している間に、「僕も体がなまつてしまふので、良ければ練習相手になつてくれない?」と頼んだのがきっかけで、踊り始めてみると「なかなかいいんじゃない」という気持ちになつて(笑)。

編集 オクサナさんが彼と踊った最初の印象は?

オクサナ 実は、とても素晴らしい印象でした。まるで、「これが本当のダンスだ!」みたいに。そんな踊り方は経験した事がなく、女性として嬉しかつたわ。

編集 最後の質問ですが、お二人は喧嘩しませんか?

フランコ もちろん! 仲はいいけど静かな喧嘩をするよ(笑)。いつでも一緒にいたいと思っていますが、この仕事では朝から晩まで一緒なので、時には自分だけのこともあります。もつとも大切にしていることは、お互いを尊重すること。これが一番大切で、相手を尊敬、尊重できなくなると殺し合いになつてしまふから。

編集 それでは、トップダンサーの素顔ということで、カメラに向かつておかしい顔をして下さい。

フランコ どうだ?!

編集 (カメラのシャッターを切つて) ありがとうございます!

